

Economic Indicators

定例経済指標レポート

指標名: 鉱工業生産指数(2008年9月)

発表日2008年10月29日(水)

～先行きは減産幅がさらに拡大する可能性大～

第一生命経済研究所 経済調査部

担当 副主任エコノミスト 齋藤 俊輔

T E L : 03-5221-4524

(単位: %)

		鉱工業生産								資本財(除く輸送機械)				消費財	
		生産		出荷		在庫		在庫率		出荷		出荷		出荷	
		前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比
07	7-9月	1.7	2.6	1.3	2.8	1.1	2.4	0.7	1.4	1.3	3.4	2.1	4.0		
	10-12月	0.9	3.3	1.4	4.4	1.2	1.3	▲0.4	0.1	▲1.0	1.5	1.6	5.3		
08	1-3月	▲0.7	2.3	▲0.5	3.1	0.0	2.1	0.6	1.1	▲3.9	▲1.0	0.4	3.8		
	4-6月	▲0.8	1.0	▲0.9	1.2	0.4	2.7	1.4	2.3	▲1.4	▲5.3	▲0.3	3.9		
	7-9月	▲1.2	▲1.3	▲1.8	▲1.4	1.5	3.1	3.6	5.3	▲5.7	▲11.2	▲1.0	1.6		
07	9月	▲1.6	0.2	▲1.5	1.0	0.5	2.4	3.9	4.2	▲1.8	▲0.1	▲3.5	1.8		
	10月	1.9	5.3	1.6	6.3	0.7	1.8	▲4.2	▲1.9	0.7	1.5	1.4	7.3		
	11月	▲1.5	3.2	▲0.9	3.5	0.9	2.7	2.0	1.0	▲1.1	1.9	▲0.4	3.9		
	12月	0.6	1.5	1.4	3.3	▲0.3	1.3	0.2	1.3	1.1	0.9	1.4	4.6		
08	1月	▲0.5	2.9	▲0.5	3.9	▲0.2	1.9	▲1.6	0.6	▲1.7	▲1.0	0.9	6.5		
	2月	1.6	5.1	1.2	5.8	0.1	2.3	▲1.4	▲1.1	▲1.4	1.8	1.0	5.5		
	3月	▲3.4	▲0.7	▲3.9	0.1	0.1	2.1	7.1	4.4	▲5.2	▲3.1	▲5.3	0.2		
	4月	▲0.2	1.9	0.9	2.8	▲1.2	1.0	▲3.9	0.4	0.3	▲5.7	3.6	7.3		
	5月	2.8	1.1	2.0	1.7	0.5	1.5	0.0	2.3	6.9	▲2.2	0.9	4.0		
	6月	▲2.2	0.0	▲3.0	▲0.6	1.1	2.7	3.8	4.0	▲6.2	▲7.5	▲3.2	0.8		
	7月	1.3	2.4	1.9	3.1	▲0.1	2.2	▲3.6	1.3	▲2.9	▲11.3	3.6	9.2		
	8月	▲3.5	▲6.9	▲3.7	▲6.8	▲0.3	1.7	7.7	9.5	▲3.9	▲15.3	▲3.6	▲6.3		
	9月	1.2	0.4	0.4	▲0.6	1.9	3.1	▲0.6	4.8	5.3	▲7.7	▲0.6	1.8		
	10月	▲2.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
	11月	▲2.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		

(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

(注) 10、11月は、製造工業生産予測調査の数値

○ コンセンサス上回るものの、基調としては減少傾向

9月の鉱工業生産は、前月比+1.2%と2ヵ月ぶりの上昇となり、事前コンセンサス(+0.4%、レンジ▲1.9%～+2.0%)を上回る結果となった。もっとも、7-9月期でみれば、前期比▲1.2%と3四半期連続の減産となり、前期(同▲0.8%)からマイナス幅が拡大している。足元の生産は基調として減少傾向を辿っていると判断される。また、予測指数(10月:▲2.3%、11月:▲2.2%、12月:横ばいと仮定)を踏まえると、10-12月期は同▲4.0%と4四半期連続の減産の可能性が高い。輸出の減速などを背景に10-12月期は減産幅がさらに深まりそうだ。なお、前月大幅に上昇した在庫率は前月比▲0.6%と若干低下したものの、基調としては上昇傾向を辿っている。

業種別にみると、9月は一般機械(前月比+5.5%)、輸送機械(同+3.4%)、電子部品・デバイス(同+4.1%)などが上昇に寄与している。もっとも、こうした業種は単月では上昇したものの、7-9月期でみれば、いずれも低下幅が拡大している。一般機械は、設備投資抑制の影響などを背景に引き続き減少傾向を辿っている。同様に輸送機械も、欧米向け自動車輸出の減少が続いており、基調は弱含みとなっている。また、予測指数をみても、世界的な自動車需要減退を背景に10月(▲5.3%)、11月(▲8.5%)ともに明確な減産を見込んでいる。電子部品・デバイスは、半導体需要の鈍化などを背景に均してみれば減少傾向が続いている。7-9月期の出荷在庫バランスをみても、▲23.4%ポイントと前期(同▲18.2%ポイント)からマイナス幅を拡大させていることから、在庫調整圧力の緩和はみられず、当面は減少傾向が続くと予想される。

○ 全体的に出荷在庫バランスが悪化

7－9月期は鉱工業生産全体でみた出荷在庫バランスは、▲4.5%ポイントと前期（▲1.5%ポイント）からマイナス幅が拡大した。内容的にも、電子部品・デバイス（▲23.4%ポイント）や情報通信機械（▲26.1%ポイント）などIT部門を中心に、IT部門以外へ出荷在庫バランスの悪化が広がっている。

こうしたことから、先行きの生産は①世界経済の停滞を背景に輸出の減速が続くこと、②これに伴いIT部門を中心とした在庫調整局面が続くと予想されることなどから、減少傾向で推移すると考えられる。

○ 7－9月期は資本財、消費財出荷ともに低下幅拡大

設備投資と関連の深い資本財出荷（除く輸送機械）は前月比+5.3%（8月同▲3.9%）と4ヵ月ぶりに上昇したものの、7－9月期は▲5.7%と大幅に低下しており、足元の設備投資は減少傾向を辿っている可能性が高い。また、消費財出荷も前月比▲0.6%（8月同▲3.6%）、7－9月期は▲1.0%となっている。消費者物価上昇による実質購買力低下や消費マインド悪化などを背景に、個人消費も低調な動きとなったとみられる。

